

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村上 一弥

<b>事業名</b>	<small>にほんかいえんがんとうほく のしろ こさか</small> 日本海沿岸東北自動車道 能代～小坂 <small>ふたついいまいずみ</small> （一般国道7号 ニツ井今泉道路）	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 東北地方整備局
<b>起終点</b>	<small>のしろ ふたついまちこつなぎ</small> 自：秋田県能代市ニツ井町小繋 <small>きたあきた いまいずみ</small> 至：秋田県北秋田市今泉			<b>延長</b>	4.5 km
<b>事業概要</b>					
日本海東北沿岸自動車道は、新潟県新潟市から青森県青森市に至る延長約321kmの高規格幹線道路である。 ニツ井今泉道路は、日本海沿岸東北自動車道の一部を構成し、道路の安全性及び災害時のリダンダンシ一確保、地域の基盤産業の支援を目的とした能代市ニツ井から北秋田市今泉を結ぶ延長4.5kmの自動車専用道路である。					
H24年度事業化		H一年度都市計画決定 (H一年度変更)		H25年度用地着手	
				H26年度工事着手	
<b>全体事業費</b>		約150億円		<b>事業進捗率</b>	
				44%	
<b>計画交通量</b>		12,100台/日		<b>供用済延長</b>	
				- km	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b>	<b>総費用</b>		<b>総便益</b>	
	(事業全体)	<small>(残事業) / (事業全体)</small> 97億円 / 465億円		<small>(残事業) / (事業全体)</small> 317億円 / 1,066億円	
	2.3 (1.4)	(事業費 : 82億円 / 426億円) (維持管理費 : 15億円 / 40億円)		(走行時間短縮便益 : 262億円 / 766億円) (走行経費減少便益 : 37億円 / 218億円) (交通事故減少便益 : 18億円 / 82億円)	
(残事業)					
	3.3 (2.4)				
<b>感度分析の結果</b>					
【全体事業】 交通量 : B/C=2.1~2.5(交通量 ±10%)      【残事業】 B/C=2.7~3.7(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=2.3~2.3(事業費 ±10%)                      B/C=3.0~3.6(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=2.3~2.3(事業期間 ±1年)                      B/C=3.1~3.4(事業期間 ±1年)					
<b>事業の効果等</b>					
①円滑なモビリティの確保 ・能代市から大館能代空港へのアクセス向上が見込まれる（現況：53分→整備後：46分*）。 ②物流効率化の支援 ・小坂町から能代港へのアクセス向上が見込まれる（現況：84分→整備後：72分*） ③国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が新たに拠点都市である能代市～大館市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構築（現況：91分→整備後：70分*） ④個性ある地域の形成 ・主要な観光地（世界遺産「白神山地」）へのアクセス向上が期待される。 ⑤災害への備え ・緊急輸送道路ネットワーク計画に位置付けがある（一般国道7号は秋田県緊急輸送道路ネットワーク計画において「第1次緊急輸送道路」に指定）。 ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 ※他の事業中区間の効果も含む					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>					
○秋田県知事の意見 ・一般国道7号能代市ニツ井～北秋田市今泉間は、災害時等の通行止めの際に広域迂回を強いられている区間であるとともに、死傷事故が多発する危険箇所を抱えているため、代替性と安全性の確保が課題となっております。 ・現道の一般国道7号とほぼ並行する日本海沿岸東北自動車道の一部を整備するものであり、代替路線の確保と事故危険箇所の回避が可能となるほか、大館能代空港、能代港、秋田港等のアクセス向上により、製造業などの企業立地が進む県北地域の生産性向上や販路拡大、十和田湖や森吉山等の周辺地域における観光動線の確保及び死亡率の高い脳疾患患者の搬送時間短縮と搬送中の振動低減といった効果が期待できることから、引き続き、事業期間内の完成に向けて、必要な予算の確保及び一層の事業推進をお願いします。					

事業評価監視委員会の意見  
 対応方針（原案）どおり「事業継続」が妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等  
 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない  
 ・鷹巣大館道路（Ⅱ期）（鷹巣～二井田真中）がH28に開通

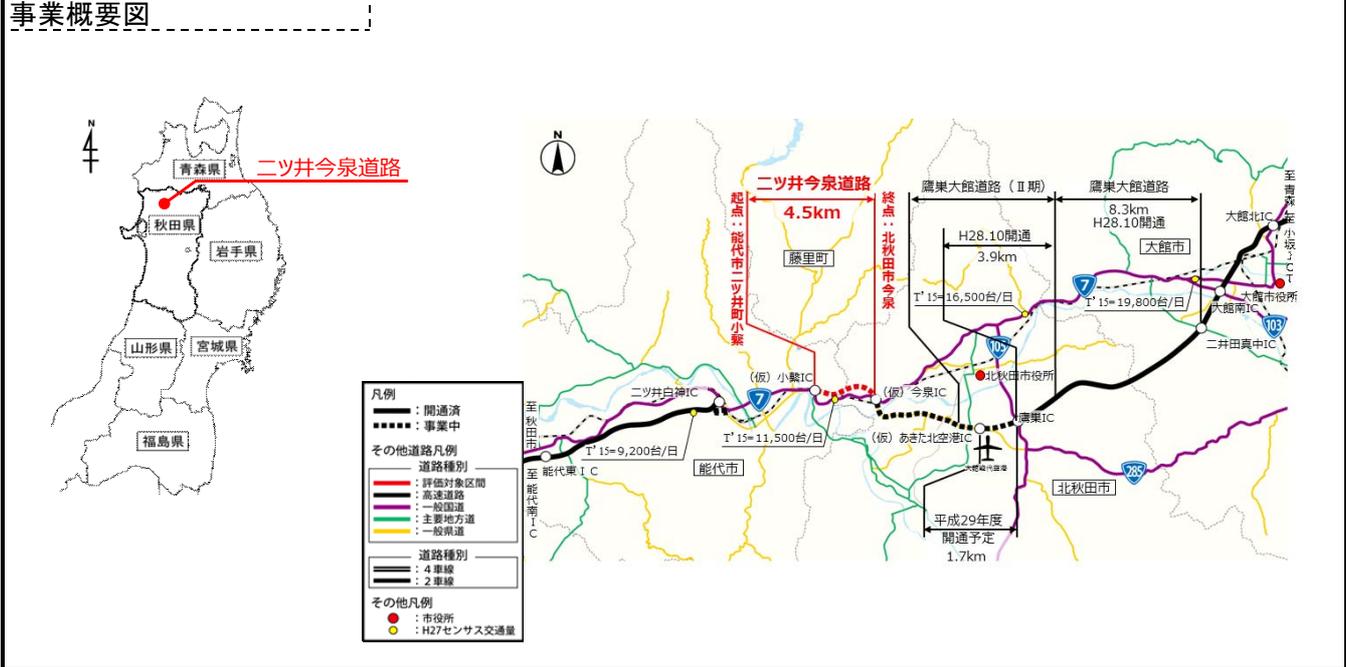
事業の進捗状況、残事業の内容等  
 ・事業進捗率44%（うち用地進捗率71%）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等  
 ・事業の進捗に係る問題はない。  
 ・完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定。

施設の構造や工法の変更等  
 ○コスト縮減  
 ・機能補償のため設置する交差道路2路線の集約、及びこ道橋を側道切回しに変更し、コスト縮減を図る。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由  
 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。